



発行所  
龍頭山 受法寺  
〒781-0262  
高知市浦戸 343  
088-841-3870  
URL: juhouji.com



E-mail  
juhouji@gmail.com

「先祖が天国で暮らせてない」とかってあおられたら、不安になっ  
て信じてしまっつかも。  
高知新聞に、高校生からの投稿がありました。



元日会のお荘厳

ご先祖が天国(あの世・お浄  
土・仏の国)ではなく、地獄で  
苦しんでいると不安をあおられ  
ると、迷い心配になってきます。  
またそのことにつけこむ団体も  
あります。  
言うまでもなく、地獄とは生  
前中に犯した罪により、死後に  
罪人が赴かねばならない世界の  
ことです。源信和尚は『往生要

集』で地獄を細かく示して、虫  
などの殺生をおこなった者が落  
ちる場所の等活地獄(とうかつ  
じごく)は、罪人同士で骨にな  
るまで殺し合う所となっております。  
骨となって終わりでなく一  
陣の涼しい風が吹きどこかで  
「活！活！」と叫ぶ声がすると、  
もとの姿となり、再び殺し合う  
のです。

地獄絵図でも示される世界  
は、鬼によって苦しめられる姿  
はまことに恐ろしく、ご先祖が  
このように苦しめられているの  
かと、不安になります。

しかし、ここで源信和尚が示  
されたのは、ほかでもなく私自  
身の罪深さを示す、地獄のすが  
たでした。私たちは他人の罪や  
あやまちはみえるけれども、自  
分の罪やあやまちはなかなか気  
づきません。

# 地獄行きの私が 仏さまのお浄土へ

それでは、わたしはお  
浄土にむかうことはで  
きないのでしょうか？  
お念仏を喜こんだ浅原  
才市さんは

獄におとしはしない、  
救おうとされる阿弥陀  
様の「かならずすくう  
われにまかせよ」とい  
う願いに気づきます。

さいちのところに、  
なにかある。  
さいちのところに、  
じごくがあるよ。  
ひにち、まいにち、  
ほのおがもえる。

おやさまが、  
わしのころへ、  
なもあみだぶつと、  
とろけ合い  
ごおんうれしや、  
なむあみだぶつ

と阿弥陀様のまなざし  
から、自分の心の中に  
地獄があると省みて、  
地獄の業火が然えさ  
かっていると歌われま  
す。

そのような才市であ  
るがゆえに、決して地

地獄行きの私が阿弥  
陀様のはたらきにおま  
かせて、お浄土に迎  
え取られることを喜び、  
南無阿弥陀仏と報恩感  
謝のお念仏を称えたの  
でした。

## 報恩講法要

日時 10月16日(日)

昼2時

法話 片山英道師

本願寺派布教使

香川県源正寺